

— 特集／負けんばい人吉 ガンバレ人吉 —

「寅さん・人吉へ！」

— 人吉に来た寅さんと “20・7・4 球磨川水害” —

球磨川アカデミア主宰 松本 晋一

はじめに

本年一〇月一七・一八日、球磨郡相良村の十島文庫にて「球磨川アカデミア」と称する市民セミナー「寅さん・人吉へ！」を開催。そのねらいは今年五〇回目を迎えた寅さん映画「男はつらいぜ、帰ってきた寅さん」にちなみ、七月四日に被災したこの人吉の地で、寅さんに学び、寅さんと遊ぼう、を企画、今度の水害には負けんバイとする主旨の会です。

実は当院（松本歯科）も七月四日の午前八時過ぎに被災。濁流は朝七時半頃、紺屋町段方面から東の大工町通りへと競り上がつて来ました。副院長からその様子を聞き、大事な機材などを地下室や一階から二階へと移動したのが八時半前。瓦屋町の自宅のテレビ放映で市街地の水位をチェックしながら水が引くのを待つたのでした。午後三時に医院に行くと



寅さんと山江村マロン号で人吉駅へお見舞い



被災 3 日目の医院前
(大工町通り)



被災 9 週後
診療再開時の待合室

床上一mの水害が残したものは厚さ一五cmの泥濘の荒野でした。それらを二週間かけて除去、壁と天井は、その後二週間かけて拭き上げたのです。泥との闘いが一ヵ月半続きましたが、加勢してくれたスタッフや友人を始め、全国の小児歯科関係者、知合いの大工さんや工務店、医療器械店さん他の協力のお陰で被災から何とか八週間後の八月三一日、診療再開に漕ぎ着けたのでした。

寅さん企画のねらい

本来、この企画は寅さんが平成一八（一九九六）年八月に亡くなられる以前にやりたい企画でしたが、そのままに。一五年前、葛飾の寅さん会館で寅さん物まねの原一平さんと知り合い、ぜひ、やろうと思つていた矢先、一平さんも早世され断念、延び延びになつていたのです。今年は寅さん映画もシ

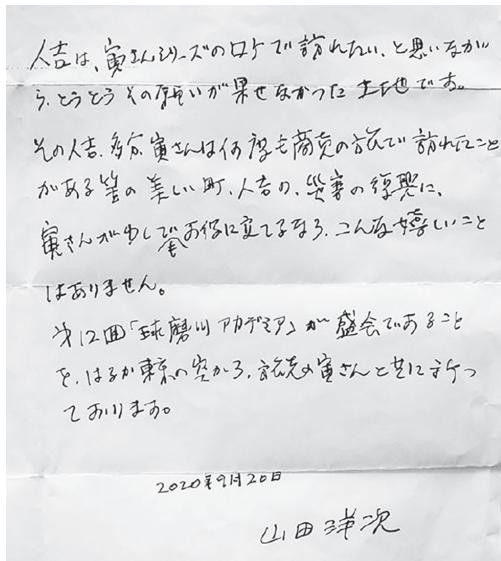
リーズ五〇回目を迎える、年末から「男はつらいよ、帰ってきた寅さん」のタイトルで復活上映。また、月刊『東京人』一月号にテーマ特集「寅さんと東京」があり、その企画に早乙女勝元氏の「監督を柴又に案内したあの日」が掲載されたことが、今回、寅さんを取り上げるきっかけになったのでした。その中で特に気になつたのが早乙女氏のお父様の存在で、実はそのことを講演の中でお聞きしたかったのです。また、寅さん映画に最初火をつけたのが映画「下町の太陽」、原作者も早乙女勝元氏ということを知り、氏と交流のあつた元人吉映画センターの上田精一氏とのご縁で、その早乙女氏を講師に第一二回目の「球磨川アカデミア」を企画したのですが、それも今度の水害で出来なくなりました。そこで寅さん自身をモチーフに「被災したこの人吉に、もし、寅さんがあなエールをくれるか」をイメージした企画でした。

それを押して頂いたのが熊本の映画館DENKIKAN



第12回「球磨川アカデミア」表紙

山田洋次監督からのエール



の窪寺雄敏会長です。会長のお世話で、一つは天草の寅さんソックリさんをご紹介頂き、早速にお会いして被災・人吉の復活のための演出をお願いしました。もう一つは会長を通じて山田洋次監督から、この会と被災した人吉にエールのお手紙を頂いたのです。それさらに企画に拍車がかかり、クルマが廻り始めたのでした。以下は山田監督からのエールと開催した内容です。

第12回球磨川アカデミア・プログラム「寅さん・人吉へ！」

10月17日（土曜午後）

午後1時～5時半：山田洋次映画資料展示会、
山田監督映画DVD上映会

卓話1 「寅さんと山頭火・湯ノ原温泉」
二宮謙児氏（山城屋主人）

卓話2 「寅さんと山頭火・人吉温泉」
前山光則氏（作家）

新作映画紹介「天外者」（てんがらもん・
五代友厚伝）廣田稔氏（映画製作者）

交流会：午後6時から願成寺「田」

10月18日（日曜）

午前9時～4時：寅さん映画資料展示会、
寅さん映画DVD上映会

卓話1 「早乙女勝元氏と山田洋次監督のこと」
上田精一氏（長崎県映画センター）

卓話2 「寅さんと乗り物・汽車とポンネットバス」
二宮謙児氏（山城屋主人）

12時：天草の寅さん・人吉の街へ山江村マ
ロン号でお見舞い・慰問

十島文庫⇒芳野旅館⇒JR人吉駅⇒くま川

鉄道⇒青井神社参拝⇒人吉旅館⇒ホテル鮎
里⇒鍋屋本館⇒大工町⇒紺屋町（渕田焼酎
屋他）⇒十島文庫

2時：寅さんパフォーマンス・口上、寅さん
踊り他

3時：フォーラム「皆で語ろう、寅さん・人
吉へ！」～球磨川の明日・人吉の未来・これ
からの夢～



天草の寅さん到着、これから皆で人吉
の街へ慰問に（18日、十島文庫前）

もりだくさんの出し物と卓話

アカデミア開催両日は、お陰で何とかお天気に恵まれ約四〇名の方々にご参加を頂きました。第一日目は山田洋次映画資料展示、山田監督映画DVD上映会、当初の予定にはないのですが、大分・湯平温泉の二宮謙児氏に「寅さんと山頭火、湯ノ平温泉」、そして八代の山頭火研究者・前山光則氏には「寅さんと山頭火、人吉温泉」について、それぞれお話を頂きました。また、初日には人吉出身で大阪の映画製作者・廣田稔氏（弁護士）が急遽、来人され、一二月一一日公開の「天外者」、監督は田中光敏、主演は三浦春馬の予告編上映と、なぜ五代友厚を映画にしたのかの制作意図のお話を頂きました。廣田氏には五年前の第九回企画「映画今昔・その楽しさ」の時にもご参加を頂き、この「天外者」は当初の企画から上映まで七年を要したことになります。

二日目朝は長崎県映画センター理事の上田精一氏（元人吉映画センター）に「早乙女勝元・山田洋次と寅さん」の卓話、二宮氏には「寅さん映画の面白さ、寅さんと乗り物」のお話をお聞きしました。
お昼前に今回の企画の目玉である「天草の寅さん」が到着。一二時からは皆で寅さんと共に、
20・7・

4球磨川水害、で被災した人吉の街中を慰問。芳野旅館とJR九州人吉駅、くま川鉄道の表敬お見舞い、次いで国宝・青井神社参拝とお見舞い、そして人吉旅館、ホテル鮎里、鍋屋本館、大工町、紺屋町へと順次、ご後援を頂いた山江村のボンネットバス「マロン号」で寅さんを各所にお連れして巡回慰問。天草の寅さん手製の激励メッセージ文を差し上げたのでした。お会い出来たくま川鉄道・下林課長、人吉旅館、鍋屋本館の女将たちには大変喜んで頂きました。
再度、十島文庫に帰つてからが天草の「トラさん」の本番です。面白い口上や初めて見るトラさん踊りのご披露演出で会場を沸かせて頂きました。この機会を頂いた熊本・電気館の窪寺会長、ボンネットバス協力の山江村様には厚く御礼を申し上げます。



山頭火と人吉（前山光則氏）



映画「天外者」公開予告（廣田稔氏）



JR 人吉駅訪問



青井神社参詣慰問



人吉旅館お見舞い



天草の寅さん激励メッセージ



紺屋町淵田焼酎屋前にて



十軒町緑屋本店前にて

山田洋次監督へのお礼とお願い

そして、この会へ頂いた山田監督の応援メッセージへのお礼の手紙には、これからも日本、そして世界の映画界のためにお元気でそのお役目を果たされることを期待する旨と、ぜひ次の第五一作目の寅さん映画の脚本やロケ地には、日本のふる里、日本の原風景、この球磨川と人吉の復活した姿を、寅さんと共にしつかりと紹介していただければと、お願ひをしたのです。そのタイトルには「男はつらいよ・寅さん、人吉へ!」、もしくは「男はつらいよ・人吉、仲よし、みんな良し」ではいかがでしょうか、とも書き添えたのでした。

フォーラム「皆で語ろう、寅さん・人吉へ」

午後三時からは今回のメインとなるフォーラムは、球磨川そして人吉の明日・人吉の未来・これから夢の副題で、もし、寅さんがSL人吉で人吉駅へ、高速バスで人吉インターを降りたとして、参加者が人吉に来た寅さんになりきり、被災した今の人吉の街を見てまず第一声で何と言うか? 何を言わせたいかの設定です。これには参加者各様のご発言がありました。被災前のこれまで、あたか

も自分で生きていると錯覚をしていたこと。人への、神への、自然への感謝の気持はながったこと。美しい山々、球磨川の流れ、暖かい温泉、この地で生きていることを誇りにしてること。皆様のお陰、この地のお陰で、皆様と共に生きているという実感を持つことが出来たこと——等々ですが、天草の寅さん自身が来てくれたことを皆さんのが喜んでおられました。

「泣いてたまるかよ」

今度の『20・7・4球磨川水害』は、まるでこの渥美清の「泣いてたまるか」の歌の文句です。

「泣いてたまるか」

歌唱：渥美清 作詞：良池まもる 作曲：木下忠司
天が泣いたら 雨になる、山が泣くときや 水が出る

俺が泣いても なんにも出ない

意地が涙を…、泣いて 泣いてたまるかヨ 通せんぱ

海は涙の貯金箱 川は涙の通り道 桜をしたとて 誰かがこぼす

ぐちとため息…、泣いて 泣いてたまるかヨ 骨にしむ

上を向いたら キリがない 下を向いたら アトがない

さじをなげるは まだまだ早い

五分の魂…、泣いて 泣いてたまるかヨ 夢がある

この歌詞の中に“山が泣くときや水が出る”、そして“川は涙の通り道”という言葉があります。これが今度の球磨川水害には、なぜか、ピッタリの言葉だと感じています。天が泣いて大雨 山が泣いて大水、でも私たちは愚痴をこぼしても、意地でも泣かない、泣けないです。どんなことがあろうと、この人吉は球磨川と共に生きて行くことが、次世代への願いです。何が起ころうとそれに耐えて、次代新しい人吉をどんな町にしたいのかを夢見ること。球磨川とこの地が共存し、この“日本一の清流・球磨川”を“近代化遺産・未来遺産の肥薩線”と共にしつかりと次世紀へと繋いでいくことが大切なことだと思います。

そして、寅さんの最後の言葉です。

「夢をつかむのは、おめえだよ、夢を見るのもおめえだよ、人の夢みてどうすんの！」

(令和二年一〇月一七日記)

参考資料
第一二回「球磨川アカデミア」抄録集 球磨川アカデミア運営委員会 二〇二〇年一〇月一〇日

【連絡先】

人吉市九日町一-十五 〒〇九六六-二三一-二九一八

Email: smatsu@fsinet.or.jp